

辺野古通信

第27号 2012年5月9日



5月5日原発ゼロの日行動。沖縄講座は「基地も原発もいらない」のTシャツ姿で参加。

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

辺野古移設は破綻。普天間固定化NO! 五月現地闘争

■4月30日、野田首相は民主党政権初の日米首脳会談に臨んだ。会談に先立って日米安全保障協議委員会(2+2)が開かれ、日米合意の内容が発表された。「辺野古移設は幻想」と公言する米議会内有力議員の要請で、辺野古移設が「唯一の有効な解決策」の文言に「これまでに特定された」と限定する修飾文が挿入されたことが、「辺野古以外の可能性を残した」とマスコミは報道している。しかし、防衛省のHPに掲載された「2+2共同発表のポイント」には「現行の移設案が唯一の有効な解決策であることの再確認」としか記していない(しかもアンダーラインで強調している!)。■首脳会談の共同声明や記者会見では、普天間問題には触れていない。記者の質問にも答えずに避けている。実は辺野古に一番こだわっているのが、日本政府、特に外務官僚・防衛官僚ではないのか。米国側は、そこにつけこんでグアム移転費の増額や普天間補修費用(8年間 200億円!)など様々な要求を突きつけている。■普天間に配備されようとしているMV22オスプレイが4月11日にモロッコで墜落し米海兵隊員2人が死亡、2人が重症を負った。同日、米テキサス州でもCV22オスプレイが故障で緊急着陸。技術的には「オートローテーションが効かない」という致命的欠陥機が7月にも配備され普天間を辺野古を高江を飛び回る。6月17日には

オスプレイ反対宜野湾市民大会が開催される。■北朝鮮の「ロケット」打ち上げを口実とした沖縄・八重山諸島へのPAC3配備と自衛隊の大量動員(航空自衛隊PAC3高射隊、救助部隊を含め950人配置)は、沖縄の人びとに、日本軍の記憶を呼び覚ました。石垣島ではPAC3警備の陸自隊員に実弾を装填した小銃を携行させた。県庁にも自衛隊員を常駐させた。そもそも「ロケット」が爆発して飛んでくるかもしれない破片をPAC3で迎撃するなどという想定が、軍事技術的にも荒唐無稽であることはいまでもない。役立つとも思えないミサイル防衛に注ぎ込む莫大な予算の自己正当化と昨年の新防衛大綱で打ち出した南西諸島への自衛隊配備の地ならし、危機を煽って沖縄の反軍・反戦・反基地の声を封じ込めるといった思惑ばかりがむき出しになった。■1月下旬の訪米要請行動(高里さんの報告参照)は、米国内の日米合意=辺野古移設推進論に致命的な打撃を与えた。「普天間固定化」の恫喝に対しては、沖縄から普天間即時閉鎖の具体的行動が提起されている。4.24横浜集会での高里さんの提起に応え、沖縄の人びとの5.15行動に合流したい。「復帰」=再併合40年の節目の年。軍事植民地状況からの自立・解放を! ■辺野古・高江カンパは累計1,273,067円(5月6日現在)。引続きカンパを! 郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

琉球新報記者・松元剛さんに聞く 5.20 学習会へ

5月20日(日)13時半横浜市開港記念会館1号室(JR京浜東北線関内駅10分)

講師 松元 剛さん『沖縄基地問題再近況』

主催: 全ての基地にNOを! ファイト神奈川 後援: 神奈川平和運動センター/沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座

沖縄への新たな基地建設を許すな！4.24横浜集会を開催

最初に「♥ 沖縄@高江」上映。「ラブ オキナワ アット タカエ」と読むそうです。「@辺野古」(40分)も完成しており、森の映画社の藤本幸久さんと影山あさ子さん共同監督の最新作。「@辺野古」は、完成間近の試作版を2月18日の神奈川集会(辺野古通信26号に報告記事掲載)で上映)米軍ヘリパッド建設の現場(高江N1及びN4ゲート前)にカメラが据えられ、沖縄防衛局職員と住民のやりとり、防衛局から委託された建設会社作業員との攻防を臨場感あふれる映像で描き、68分間があつという間に過ぎていきます。現場映像の間に、住民の会の二人の女性と沖縄平和運動センターの山城博治さんの証言が挟み込まれ、5年間の座込みの全体像、米軍ヘリパッド建設の問題点とその背景が浮かび上がるように構成されていました。



の少女レイプ事件をきっかけに沖縄の闘いが高揚し、日本政府と大田県政の攻防が激しさを増す時期でした。95年の事件は沖縄講座結成のきっかけにもなりましたが、この事件に沖縄で最も敏感に反応し、声を上げたのが、高里さんをはじめとした沖縄の女性たちでした。事件直後の9月15日の北京世界女性会議でこの問題をアピールし、「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」を結成、10月の85000人を結集した沖縄県民大会成功の原動力となりました。

◆ ◆ ◆
映画上映の後には、高里鈴代さんのお話。沖縄講座が高里さんを初めて横浜にお招きしたのは1997年2月1日「沖縄から見た基地と安保と人権」集会(戦争への道を許さない女たちの会との共催)。沖縄講座結成から2年目、95年

高里さんは、高江の問題との関わりから語り出し、1月下旬の沖縄訪米団24名の要請行動の様態と成果を報告。この講演は、高里さんの了解の下で、IWJ (Independent Web Journal) がUstream中継しました。(3頁へ)

集会アピール

米兵による少女暴行事件から17年がたつ。沖縄県民の大きな怒りを受け、普天間基地をはじめ11施設の返還を謳ったSACO合意からも15年以上が経過した。その間、沖縄の米軍基地の何が変わったのか。基地は返還されたか。地位協定は改定されたか。米軍による事故や犯罪は減少したか。いや、日本復帰＝再併合以降の40年間、米軍基地を押し付けられ、日米の植民地状態に置かれた沖縄の状況は何も変わっていない。それどころか、復帰後は本島に自衛隊の基地が置かれ、この4月には北朝鮮のロケット発射を口実に、これまで基地のなかった石垣島にPAC3と武装自衛官を展開するなど、沖縄の軍事負担は増している。

昨年11月の、沖縄防衛局長・田中聡の「犯す前に」云々という、高級官僚の、女性と沖縄に対する「本音」が出た差別暴言、更迭と陳謝の舌の根も乾かぬ、わずか1ヵ月後の環境影響評価書の常軌を逸した深夜の運び込み強行、その強行の張本人である田中の後任の局長・真鍋朗の宜野湾市長選での「講話」の名による投票誘導、環境アセスを行なった調査会社への、防衛官僚の大量の天下り、随意契約による調査費用の水増し等々、防衛省と政府のやることなすこと、そしてそうしたことをろくに報道もしない日本のマスコミに、私たちは怒りを禁じることができない。

日米両政府は、もう基地はいらない、普天間基地の県内移設は認めない、という沖縄県民の明確な意思の前に、海兵隊のグアム移転計画と普天間移設問題を切り離さざるを得なかった。それでもなお、「日米合意」は生きていと称して、「普天間固定化」の脅しと、振興予算のばらまきにより、辺野古移設を強行しようとしている。

高江では、ヘリパッド反対運動を萎縮させるため、デタラメな「通行妨害禁止訴訟」なるものを起こし、座り込みを続ける住民に対して、騒音計も振り切れるほどの大音響を拡声器でまきちらしながら工事を強行しようとした。欠陥だらけの危険な垂直離着陸機・オスプレイ配備のため、米軍の恣意的な「環境審査」も行われた。

米軍基地の存在は、原発の存在と極めて似ている。国策として推進し、利益を餌に危険な施設を地方に押し付ける差別構造だ。しかし、福島第一原発の過酷事故により、危険と利権、差別の構造は、誰の目にも明らかになった。基地・原発と民主主義、環境保全是絶対に相容れない。放射能に汚染された、基地に囲まれた世界遺産など笑止だ。

基地に反対する沖縄の広範な市民は、新たな基地建設を許すことはない。私たちは、この第2の基地県神奈川で、沖縄の闘いと連帯し、沖縄への新基地建設と米軍再編による軍事力強化を許さず、海に浮かぶ危険な原発を持つ原子力空母ジョージワシントン母港化撤回をはじめ、あらゆる基地に反対する闘いに全力をつくす。

2012年4月24日

沖縄への新たな基地建設を許さない！4.24横浜集会

◆ ◆ ◆
訪米団の要請行動は、その後の米国政府・議会内の動きに影響を与えています。高里さんは要請した米議員から「問題は日本政府では」と指摘されたというエピソードを紹介されました。日本政府の差別的な沖縄政策を転換させること、これが神奈川に暮らす私たち自身の課題であることを改めて痛感します。

集会は最後に集会アピールを確認し、21 時前

高里鈴代さん 講演・要旨



高江の映像に出てきた昨年 2 月 28 日のゲート前の現場に私もいた。朝 3 時に那覇を出て、防衛局が到着する前にと、7 時にはゲート到着。アイデアも色々出て、長い杭で広い網をつなぎ作業員が作業区域に入れないようにした。古い横断幕をできる限り集めて道路沿いにつないだ。横断幕には小泉総理への抗議の文字も出てきて、まるで沖縄の運動の歴史を見るような景観だった。

なぜ訪米か？ー日本政府頼りにならず！

なぜ寒い 1 月の時期に訪米行動をしたか。訪米の準備は昨年 10 月頃から。なぜ米国なのか。批判も耳にした。自己満足ではないか。会える議員は限られている。お金が無駄ではないか。しかし、米国議会にとって 1 月が重要な時期。議会では防衛予算の削減について、海兵隊のグアム移転の予算内容について議論していた。

2009 年 9 月に民主党政権が誕生し、9 か月後に鳩山さんが「普天間県外移設はやっぱり無理でした」と言って辺野古に回帰して辞任した。鳩山さんが首相になったとき、米国政府の報道官が出したコメントを鮮明に覚えている。「日米合意を踏襲する。辺野古移転は変わらない。」9 ヶ月間、沖縄に期待を持たせ、期待を高めてしまった鳩山さん、という言い方がされる。2010 年 5 月 28 日、雨の日に日米共同声明が発表され、辺野古回帰が宣言された。翌日の新聞には「4 回目の沖縄処分だ」とあった。1879 年琉球処分、52 年講和条約による沖縄切り離し、72 年基地の自由使用の密約付き施政権返還に続いて、4 回目。

その 1 か月前には 9 万人の空前の県民大会があり、その模様を報告した沖縄タイムスと琉球新報を持って国会に要請行動を展開した。県議会の議員や議長、自治体の首長と一緒に。国会議員のすべての部屋に新聞をポストインし、国会前に座込み、防衛省、外務省、総理官邸、米大使館に

に閉会。夜遅くまで交流しました。

◆ ◆ ◆
68 分の映画と講演で、平日夜の時間帯にはちょっと厳しいプログラムで、質疑の時間も設けたいところでした。

参加されたみなさんや、後援・賛同していただいた県央共闘会議・自治労横浜・ファイト神奈川・ピースサイクル神奈川などの団体、個人のみなさんのご協力に感謝します。

要請行動をした。そのような沖縄の思いを無視して日米共同声明が出された。

これはもう、日本政府に頼っても仕方ないという強い思いを持った。

戦後 67 年の思いを凝縮した 5 項目

この経験を踏まえ、同じように県議会や首長に米国要請行動を展開しようと働きかけたが、なかなかうまくいかない。そこで市民が中心になり、議員や首長も入ってもらう形になり、米国に沖縄の声を届ける会の結成となった。伊波洋一さんの訪米経験を元に、企画を練り上げ、5 つの要請項目をまとめた。

① 普天間の閉鎖返還② 辺野古移設計画中止③ 嘉手納へ統合することなく海兵隊の県外海外移転④ 高江ヘリパッド建設中止⑤ 日米地位協定の改定。5 つも要求を出すより絞り込んだほうがよいのではという声もあったが、5 項目は不可分の関係にある。

◆ ◆ ◆
沖縄戦で住民多数の犠牲を払った沖縄には、集落や田畑、墓地すべてを接収されて基地が建設された歴史がある。戦後、米ソ冷戦に向けた戦略的な拠点と位置づけられ、冷戦終焉後 20 年を経ている現在でも基地問題が解決していない。沖縄の基地がどのような過程で形成されてきたのか。沖縄戦で生き残った人たちは、15、6 か所の収容所に囲われて、その場にため置かれた。その間に米軍は普天間基地を建設した。ある民主党議員が普天間基地の司令官を訪ねると「ここにはパイナップルとサトウキビしかなく、何にもないところだったのに、住民が基地の周りに住み始めた」と平気で言った。その議員は、当時の市長の伊波洋一さんに「米軍の司令官からそんなことを言われたけれど、本当ですか?」と尋ねた。伊波さんは怒って答えた。「パイナップル畑なんかどこにもなかった。集落があり、墓があり、学校があり、役所があった。その場所が根こそぎ取られていた。67 年間にもわたって占領されている基地の返還を求めることは、歴史的に見ても、当然のことではないか。」

人口密集地にある普天間基地では、過密な演習が住宅地域への墜落事故。「普天間は世界一危険だ」と言ったのは、ラムズフェルド国防長官。上空から滑走路のクリアゾーンも確保されていない現状を見て、そう言った。米国自身が危険性を認識している。ところが危険な飛行場と言いながら、そこで日夜繰り返される飛行

演習で、普天間基地の周辺には、保育園から幼稚園、学校まで本当にたくさんの施設があって、爆音に日々苦しめられている。

◆ ◆ ◆
米議会軍事委員会のレビン委員長が、最近沖縄に来て美しい海を見て「辺野古移設は非現実的。普天間の移設先は、既存の嘉手納基地に統合するしかない」と言った。民主党の中にも、この嘉手納統合案を支持する意見が出始めている。残念ながら、沖縄選出の一議員も、嘉手納統合案に賛成している。

辺野古がだめなら、なぜ沖縄の中に移設しなければならないのか。嘉手納空軍基地はいくつかの市町村をまたいで存在する大きな基地。1997年に初めて健康調査が行われ、最も爆音が激しい地域の赤ちゃんの低体重児の率が全国一高い。爆音でどれほど心身に痛みを抱えているか。子どもたちは爆音に遮られて授業も十分に受けられない。爆音に慣れてしまっただけで授業を続けても大事な部分が欠けて、断片的な記憶になってしまう。また恐怖に駆られてしゃがみこむことも起る。住民の切実な訴えは、夜間および早朝の飛行訓練を止めてほしいということ。静かな夜を返してほしい。嘉手納への統合の動きは大変危惧している。

◆ ◆ ◆
辺野古ほど高江は注目されなかった。「負担軽減になる」と盛んに宣伝された。私たちが米大使館に出向いて要請すると「SACO 合意で北部訓練場の過半が返還になるのだから、沖縄のみなさんにとって良いことでしょう」と言われた。しかし、どうして負担軽減になるのか。住民地域を取り囲むように6か所のヘリパッドを整備して、まるで集落をターゲットにして演習をするかのような位置取り。実は1960年代の初めに、高江に「ベトナム村」があった。ベトナム戦争の訓練のためにベトナムの村に見立てた小屋を作り、子どもも含めて高江住民20人ほどをベトナム人に扮装させて爆撃の演習をした。当時を知る住民の証言で、訓練に参加しないと生活に必要な水を汲むことが許されなかったことがわかった。この高江の声を米国に伝えることが重要だと考えた。

◆ ◆ ◆
沖縄ではタクシー強盗や交通事故、住居侵入、傷害など日常的に米兵による事件事故が起こっている。米軍駐留から今日まで、すさまじいばかりの米兵による強姦事件が起こり続けている。特に今回、日米地位協定の問題を持ち込んだのは、昨年1月、成人式を前にして、県外から帰郷した若者が交通事故で死亡した事件があったから。酒気帯び運転の兵士は、基地からの帰りで公務中扱いで、米軍が引き取った。あまりのひどさに被害者の母親が訴えた。

米議員、研究者69人と接触。「相手にすべきは日本政府」との反論も

24人を4チームに分け、英文で5項目の資料も準備し通訳も確保し4日間要請をした。国会議員二人は、日本外務省を通して米政府関係者の日程を取った。外務省はあまり熱心でなく土壇場になって予約が入ったり、キャンセルがあったり。国会議員二人のチームを夕食に招待することだけは、ちゃんとしてくれたが(笑)。外務省にとっては、沖縄から日本政府を飛び越えていくことに、必ずしも後押しをするという認識ではなかった。残りの二チームは総当たりで予約を取り付



け、軍事委員会の委員、外交委員会の委員、軍事費削減小委員会の委員をリストアップし、議員本人でなくとも補佐官でも、とにかく要請しようということにした。研究者も含め69人の人物とコンタクトをとった。

「沖縄から海兵隊は撤退すべきだ」という議員もいたが、「あなたたちは要請する相手を間違えている。東京の政府や国会議員に訴えるべきではないか」と反論する議員も。米政府は日本部長が会ってくれた。

米議会調査局にも行った。米国は、議員一人ひとりが独自に法案を提案する。自分の関心のあるテーマについて議会調査局に依頼する。調査局の調査員は、議員から依頼されて沖縄に調査に行き、沖縄県庁の職員に面会し、米軍基地の中にも入り、名護市長にも会った。軍からも、行政からも、地元からも聞き取りをしてきた。「県庁の職員は何と言っていましたか」と聞いたら、「副知事が、辺野古はもうない、と明確に話した」と。米国は、沖縄の事情について、とても詳しく調査し、把握している。そう感じた。

外交問題審議会の主任の方にもお会いした。日本滞在経験もあり、オバマの対日政策のアドバイザー。私たちが「辺野古移設を認めているのは沖縄県の中では、たった3%」と話す、けれども仲井真知事は、明確にはNOと言っていないと応じた。「名護市議会の二人が変われば、名護市議会も変わる可能性がある」とも。田中前防衛局長の差別発言問題についての論文も書いている。「アセス環境評価書はウェブサイトで公開されていますか」とも聞いてきました。本当にきめ細かく沖縄の中の動きを見て、分析もしている。

占領状態からの脱却 —沖縄の非植民地化 Decolonization を！

最後に、Occupy DC ワシントン占拠せよ！運動の現場にも出かけた。そこで私は、沖縄は米軍の占領を解いてもらいたい、We want un-occupy! と言った。99%が1%のウォール街を占拠して変えていこうと始まったOccupy運動だが、67年間沖縄は米軍に占拠されている。この占拠状態を取り除きたい。沖縄は1%だが、99%の日本人がまったく無関心の状況がある。これを変えたい。オキュパイというよりも、Decolonization 非植民地化という言葉で表現しようという動きが、ハワイの先住民の闘いにもある。もっと女性たちの取り組みや、プエルトリコの話もしたかったが、またの機会にしたい。

(編集部で責任をまとめました)